

1. 当園の教育目標

○ 園での生活を通して、伸び伸びと遊ぶ楽しさや人と関わる喜びを十分に味わわせることで、子どもたちの心を幸福感で満たし、情緒の安定した偏りの無い人格を形成する。

○ 人に受け入れられる、認められる経験を通して、自己肯定感と感謝の気持ちを持てるよう導き、生きる力の基盤となる強い心を育む。

○ 感情の行き違いや意見の衝突を経験することで、自分以外の人も自分と同様に大切な存在であることに気づくよう導き、他に対する思いやりやいたわりの心を育む。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

○ 人的環境の充実に努める。

担任教諭が各自研鑽を積み、保育者としての資質向上に努める。

加えて学年単位で担任同士が連絡を密にし、相互理解を図ることで連帯感を醸成し、共通の目的意識を持った保育を実現する。

副担任(担任以外の教諭)が、担任の補佐役に留まらずクラスの枠を超えて客観的視野を持った助言者、担任同士の調整役としての役割を自覚し、積極的に活動することで組織の活性化を図る。

○ 保育料無償化に必要な業務を円滑に遂行する。

年度途中からとなる無償化の給付申請について、適時適切に保護者に説明・案内し、書類手続きを滞りなく進める。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

1) 担任間の連携強化による保育意欲の向上 B

同一学年の担任同士が情報共有に努め、相談する機会が増える中で、担任の性格や相性によっては見解の統一が困難な場合もあった。

今後は必要に応じて、担任間に調整役が介入して、相互理解を図れるよう援助することで、学年単位で保育への意欲を活性化させていきたい。

2) 副担任の役割を拡大、確立する。 B

副担任は担任の補佐役として、学級経営が円滑にできるように尽力し、保育に欠かせない存在となっている。しかし担任の思いを尊重する余り助言や指導、担任間の意見調整にはいささか消極的であった。

今後はより積極的に保育に介入できるよう副担任の意識改革の必要を感じる。

3) 特別な配慮を要する園児・保護者への組織的な対応 A

今年度は育児放棄・虐待等、保護者が抱える問題に園が関与する事案が複数あり、主任や園長が積極的に介入、連携して慎重に対応することができた。

4) 安全教育の充実 A

例年の安全教育・避難訓練に加えて、中学生と合同での避難訓練を実施することができた。

実際に中学生に手を引かれて、上層階へ避難誘導される経験は園児にとっても印象深く、安全に生活することについて考える良い機会となった。

5) 保育料無償化のための業務を円滑に進める A

今年度は保育料の公費助成のための手続きが、就園奨励費と無償化の認定申請の2種類の過渡期にあたり、案内・書類のとりまとめなど、園の業務は繁雑を極め、時間的制約も厳しい中で善処し、遂行することができた。新入園児に対しても、事前に予告説明を繰り返し行うことで、保護者の理解を得て混乱無く取り次ぐことができた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果 A

- 各担任教諭が経験を積むことで、保育者としての技量が向上し、園内の人的環境はさらに充実・安定していた。一方で学年毎にカリキュラムに即した適切な保育が立案実施されているか、担任相互に検証し合うような連携はいささか不十分の感が否めない。同学年で保育による経験内容の公平性を図るためには、客観的な立場で助言、是正できる副担任等、担任以外の教諭が担任間の調整役としての役割を果たし、担任の意見をまとめ、更なる連携強化を図る一助となるように期待する。担任を指導、助言することで支える立場としての副担任の役割を明確にし、自覚を促すことでより一層の人的環境の充実を図りたい。
- 園児募集については、ごっこクラス在籍者など、優先枠による出願者の入園辞退が複数あり、10月1日の募集締め切り後も新入園児の確定に手間取った。結果的に人数は確保できているが、次年度以降はより無駄を減らし、適正な募集を実現するために、他園との併願者を減らす工夫が必要と考える。
- 近年巨大地震を想定して防災訓練・安全教育には注力しているが、今年度は新北野中学校の施設を使用するだけでなく、実際に中学生と合同で大津波を想定しての避難訓練を実施することができ、園児にとっても教職員にとっても、防災の意識を高める良い機会となった。また、園内に地震警報即時報送システムを設置し、施設内でいち早く地震に備えるための環境を整備することができた。
- 無償化事務にあたっては、大阪市からの必要書類の提示、配付から提出期日までの期間が非常に短く余裕のない日程で有ながら、保護者に対して事前に予告説明を繰り返し行うことで、混乱もなく申請書に関わる業務を不備無く行うことができた。取り分け入園前の園児保護者へ案内通知の発信には手間取ったので、次年度に向けて検討を要する。
- コロナウィルス感染予防のために突然の臨時休園となり、年度末を迎える園の職員も如何に対処すべきか戸惑った。今後、保育ができない状況下でも、幼稚園として園児や保護者に対して発信・提案できることを模索し、実現していく必要を感じている。

5. 今後の取り組むべき課題

- 園児募集の適正化

余裕のある園運営のために適切で効率の良い園児募集を実現する。(受付時の混乱の回避や送迎バスの負担軽減など)

- 担任以外の教諭の職務拡大

担任以外の教諭の助言者・指導者・調整者としての役割を明確にし、組織の連携強化や保育の活性化に繋げる。

- ITを利用した保護者への情報提供

在宅の園児や保護者に対して、園から情報発信の内容やタイミング、安全な方法を検討する。

- 保護者のニーズに合った預かり保育の受入体制の整備

新2号認定児が増加傾向にある中で、優先枠を確保した上での適切な受入可能人数の設定。

6. 学校関係者の評価

- 全項目にわたって特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。